

授業概要

科目名	嚥下障害Ⅱ				授業の種類	演習	講師名					
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2	単位	必修・選択	必須	配当学年 時期	ST2年	後期
【授業の目的・ねらい】 摂食嚥下障害の病態、検査法及び治療の理論と方法について学ぶ。												
【実務者経験】 言語聴覚士としてツカザキ病院にて、急性期・回復期・外来の失語症・嚥下障害・構音障害・高次脳機能障害分野の言語聴覚療法に従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 講義、実技演習、事例検討を用いて、摂食嚥下障害へのアプローチについて総合的な理解を深める。また、臨床及び国家試験に必要な専門的知識、技術を身に着ける。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 摂食嚥下障害について、臨床実習、国家試験に必要な専門的知識と技術を身に着け、基礎～応用的な対応ができる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	嚥下器官の解剖・生理、摂食嚥下のメカニズム、咀嚼・嚥下・呼吸の神経・筋機構①											
2	嚥下器官の解剖・生理、摂食嚥下のメカニズム、咀嚼・嚥下・呼吸の神経・筋機構②											
3	嚥下の年齢的变化、嚥下障害の原因と分類、病態と症状（誤嚥など）、合併症①											
4	嚥下の年齢的变化、嚥下障害の原因と分類、病態と症状（誤嚥など）、合併症②											
5	摂食嚥下障害の評価方法（簡易検査、音声・構音検査、摂食観察）①											
6	摂食嚥下障害の評価方法（簡易検査、音声・構音検査、摂食観察）②											
7	摂食嚥下障害の評価方法（嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、その他の検査）①											
8	摂食嚥下障害の評価方法（嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、その他の検査）②											
9	嚥下障害の手術的治療、気管切開患者への対応											
10	摂食嚥下障害の治療・訓練の適応、間接嚥下訓練											
11	摂食嚥下障害の直接嚥下訓練											
12	摂食嚥下障害へのチームアプローチ、代替栄養法											
13	小児の摂食嚥下障害											
14	器質性嚥下障害											
15	デイリー記載方法、事例検討											
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版												
【準備学習・時間外学習】 予習復習および実技の練習が必要です。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。												